

Amir Tsarfati 氏 中東情勢アップデート 2018年 1月 22日公開

.....

フィリピンのマニラより、シャローム。アミール・ツアルファティです。マニラのビルの40階より、レポートできることをとても嬉しく思います。まだ12時にはなっていませんが、人が集まるまであと数分かかると思うので、その間に私がここフィリピンに到着してからの事について報告したいと思います。まずはじめに、皆さん、お祈りありがとうございました。フライトは順調でした。私の荷物がマニラに届きませんでした。翌日になってそれも取り戻すことが出来ました。それからフィリピン南部の島に行きました。ミンダナオ島という、南部の非常に大きな島です。そこで3つのメッセージをしてから、Q&Aを行いました。それがダバオ市です。そこで預言カンファレンスを行なったのですが、2,000人が来場して、とても素晴らしかったです。ダバオ市にある、Praise Revival Church または Praise Revive Center 主催です。マニー・パッキャオ議員が奥様と彼の家族と一緒に、3時間かけて運転してきて、参加されました。他にも著名なゲストが数名いましたが、私が驚いたのは、地元のイスラエル人で、彼らは信者ではありません。彼らはダバオで働いていて、地元の人たちが招待したのですが、彼らは来ただけでなく、初めから終わりまでいたのです。だから、私個人の証しを伝えることも出来たのです。それから、メッセージの一つで、私は旧約聖書の聖句をヘブル語で引用したので、彼らには聞き覚えがあったはずですが、とても素晴らしい時間でした。それから車で三時間半のジェネラル・サントス市に移動して、日曜日の朝は「競走を走れ」というメッセージをしました。この終わりの時、クリスチャンとして、信者として、人生を競走だと理解して、私たちはどのように生きるべきかについてお伝えしました。競走では、プロの走者として、私たちは勝つために走らなければなりません。私たちは、地上の朽ちる冠や賞品のためでなく、それよりもはるかに優れたもののために走るのです。それから、私たちは何に向かって走るのか、また、何に背を向けて走るべきか、についても説明しました。私たちは人生のほとんどを走っていることに気づきます。大切なのはその方向で、私たちは過去の生き方を捨てて、と聖書にあるように、そのようなものに向かって走らないようにしなければなりません。それが終わってからマニラに戻り、今日はこのユーチューブライブを含めてミニストリーの仕事をして、それから明日は、マニラの大きな教会で話をします。水曜日にはテレビとラジオ出演があって、木曜日は他の場所で、金曜日にも飛行機に乗る前に、別の教会で何回か話をします。それからのはるばるロサンゼルス、チノヒルズに言って、週末はそこで講演します。ですので、次の週末はカリフォルニア、今回はここ、その間にたくさんする事があります。非常に忙しいですが、とてもワクワクしています。以上が今回の出来事ですが、マニラに向かう空港で、主が私に語ってくださったのは、聖書預言におけるフィリピンの役割についてのメッセージです。以前も、何度もお話してきましたが、聖書預言の中で重要な役割を担うために、聖書の中に皆さんの国の名前が出て来る必要はありません。アメリカもそうですし、フィリピンも非常に重要な役割を果たしました。多くの方がこの事を知りませんが、両方とも、第二次世界大戦中にユダヤ人を保護しました。当時1939年のフィリピンコモンウェルスの大統領は、1,300人のユダヤ人を助けたのです。恐らく、シンドラが救った数よりも多いでしょう。それを、マニエル・ケソン大統領は、アイゼンハワー軍司令官と、それからマニラでタバコ工場を所有していた、ユダヤ系アメリカ人の一族と共に行なったのです。イスラエルが再建されてもいないうちに、フィリピンが用いられ、ユダヤ人を保護した様子は、実に感動的です。それから1947年11月29日、ユダヤ人国家建国に関する国連決議181

に、アジアで一番初めに賛成票を投じたのはフィリピンでした。賛成に投票したのは、アジアではフィリピンだけ、それが最後の一票でした。これもまた、重要な事です。それから数週間前、国連でのドナルド・トランプのエルサレム宣言を拒絶する投票で、フィリピンは棄権しましたが、フィリピンの棄権は基本的には「私はそれで構わない」「私たちはそれで良い」「私たちはそれに反対しない」と共鳴しました。ですから、ここでも実に興味深い役割を果たしました。そして私は、ある事実をもって締めくくったのですが、フィリピンの人口の10%、1,000万人のフィリピン人が外国で働く労働者で、そして彼らの多くが新生して御霊に満たされているクリスチャンです。彼らは、他の人たちが出来ないような方法や場所で、福音を宣べ伝えているのです。彼らは、多くのイスラム教徒の家庭でお手伝いさんとして働いていて、サウジアラビアやその他、これ以外の方法では福音が届かなかったような場所で、神が、福音の司令部として彼らを用いておられるのです。これが今回フィリピンで伝えたメッセージで、恐らく、私がここにいる間に、他に用意したメッセージ以外にも、このメッセージをあと数回お話すると思います。現在私は、2018年に備えています。私にとって物凄く忙しい年になります。海外に出る時間をもっと減らそうとしていて、以前より数は減ったように見えますが、これまでよりも多くの国を訪れます。きっと面白い事になるでしょう。あと数分でアップデートを始めますが、その前にお祈りして、この時間を主に捧げましょう。

お父様、あなたに感謝します。

あなたは良い神であられ、良い父です。

私たちは、世の中で起こっていることを見て、あなたが全てを手中に握っておられることを知り、あなたの御前に進み出ます。あなたは時をご存知で、あなたは季節をご存知です。そしてそれらのことを、あなたは私たちに知らせてくださいました。あなたが、終わりの事を初めから告げた、と聖書に書かれています。あなたが告げてくださったことに感謝します。あなたの子もたちにそれを知らせてくださって、ありがとうございます。この世で現在起こっている事、そしてこれから起こる事の実に多くを、あなたが預言者たちを通して、私たちに理解させてくださったことに、感謝します。また、あなたがこれらのことを私たちに知らせ、理解させる理由も、私たちには分かります。それは私たちに恐れさせることではなく、私たちが備えることを、あなたが願っておられるからです。ですから、お父様、私たちの心から、すべての混乱、すべての恐れを取り除いてください。そしてあなたが、私たちに明確な理解を与えてください。また、私たちに保障されている事、救いだけでなく、もうすぐここを出て行くのだという事の知識と理解、そして、信念をお与えください。あなたの御言葉のレンズを通して、世の出来事を見るこの時間をあなたに感謝し、あなたを祝福します。どうか今、この配信全体をあなたがお守りください。

イエシュア、イエスの御名によってお祈りします。

アーメン。

アーメン！素晴らしい！

ということで、皆さん、アーメンですか？

いつも視聴者の皆さんにお勧めしているのですが、どうかご自身を「Watchman/見張り人」として認識してください。それぞれ「watchman from～」というように、どこの国の見張り人かお知らせください。

これまでもずっとお伝えしてきましたが、この世での私たちの役目は、ただ知識を溜め込むだけでなく、知識を吸収するだけでなく、何であれ、私たちに与えられたことは、私たちが人々に伝えなければなりません。人々に警告しなければならない。それを宣べ伝えなければなりません。皆さんの一人一人が Watchman/見張り人です。ですから、何であれ皆さんがコメントされる時は、「Watchman from～」と、皆さんのおられる場所を知らせてください。私たちはカルトでも何でもありません。見張り人になるという事は、聖書的な表現です。また、これが聖書的な表現であるだけでなく、この終わりの時代の私たちがどういう者なのかを明確に表していると思います。そうです。エゼキエル 33 章、私たちは間違いなく見張り人です。私たちは、事が起こるのを見ているだけでなく、人々に警告を与えるのです。ですから、Watchman from～...どこであれ、ミシガンでもテキサスでも、ケープタウンであれ、あなたは見張り人です。これに慣れておいてください。これが私たちですから。そして私たちは、一旦それを認識したら、そのように行動するようになるものです。私たちは理解しなければ、そのように行動しないと思います。私たちは実行しません。しかし、私たちが見張り人であることの責任を理解すれば、私たちは見張り人として働くことが出来るようになる、と私は信じています。それから見張り人は、必ずしも明るい人だとは限りません。また、暗い人とも、力のある人だとも限りません。見張り人とは、ただ時と季節を理解して、人々に警告する人です。それには様々な方法があります。私が思うに、主は、それぞれの生活の中で、何らかの形で福音と、終末のメッセージを、周りの人たちに伝達できるようにしてくださっています。ですから、インターネット上であろうと、電話で友達に伝えるにしろ、一対一で会うにしろ、どんな形であれ、あなたが友達や家族に伝えられるように、神が扉を開いてくださるよう祈ります。

ということで、もうすぐ 12 時（書記注:日本時間では 2018 年 1 月 22 日 13 時）になりますので、アップデートを始めます。今日は、シリアとトルコ国境の情勢に集中したいと思います。皆さんの中には、もうお聞きになった方も居られるかと思いますが、この 48 時間の間に交戦がありました。実際に、シリアが援護しているスンニ派の兵士たちが、クルド人の居住する村に侵略したことが始まりで、軍戦闘機が空から援護しました。そして、クルド人居住の村のいくつかは、スンニ派によって占拠されました。また同時に、クルド人たちが迫撃砲で反撃したところ、トルコ国境のいくつかの町に命中したのです。これで、この地域の本当の闘争、本当の理由が、シリアの内戦を助けるためであるとか、ISIS と戦うためなどではないことが分かりますね。——違います。本当の理由は、ずっと言ってきましたが、トルコが、そもそもこの闘争に関わった本当の理由は、自分たちのクルド人との対立です。ISIS との戦いにおいて、クルド人たちは非常に大きな勢力になっていて、12 月 22 日、アメリカのジョセフ・ヴォーテル中央軍司令官が

「アメリカは、シリアとトルコの国境と、シリアとイラクの国境において、国境警備を始めるために動いている。」

と述べました。

それを聞いたトルコは、12 月 22 日の事ですが、——アメリカが何かを企んでいる、ともう既に恐れ始めているのです。

アメリカは、シリアで何もしないという事は、イランと一緒にシリア派拡大の手助けをしているのと同じだという事に気づきました。トランプ大統領は

「援護すべき人を援護する」

と決意したのです。それが、クルド人です。クルド人は、シリアとイラクの一部で、ISISを根絶するために戦っている主要勢力です。そしてトランプ大統領は、今こそ彼らに報いる時だと決意し、彼らへの報いとして、あちらで軍を結成して、ISIS根絶を強化し、クルド人たちが、あそこで生きていくのを助けようとしているのです。ということで、ヴォーテル司令官が、アメリカはそれを始動している、と言いました。また、エルドアンとトランプの関係は既に悪く、二人の間に大きななだかまりがあります。それから、あちらでは未だに危機があります。そして1月6日、トルコの公式通信社アナドルが、基本的には

サバー・アル・キールと呼ばれる基地で軍事演習が行われると発表しました。ここは、アラブ語で「おはよう」の意味です。アメリカが始めた、もしくは建設した基地で、クルド人都市ハスケの南部、シリア北部、ユーフラテス川にあるティシュリーンドムのすぐ隣です。興味深いことに、報道によれば、そこではアメリカがクルド人を訓練しており、人を保護する部隊から・・・トルコが危惧しているのは、誰であれ、武器を持ったクルド人は、地下組織のPKK（クルディスタン労働党）の一員であると見て、彼らはそれが気に入りません。それが6日。アナドル通信社が報道しました。1月13日、ペンタゴン（アメリカ国防総省）が公式に発表したのは、約3万人の兵士から成る軍事部隊の設立です。これは12月22日に司令官が言ったことが、1月13日に公式発表されたのです。そして、これがまさに、エルドアンが非常に恐れていることです。エルドアンが危惧しているのは、もしクルド人がシリアで独立すれば、彼の領域のクルド人たちも独立を求めるだろう、ということです。トルコは、自分の領域でクルド人が独立することを、何よりも恐れているのです。ですから、トルコが言っているのは、基本的には

「アメリカが我々を騙した」

「アメリカが我々を迷わせたのだ」

「アメリカが我々を陥れたのだ」

ということです。アメリカ大統領とトルコ大統領の間で、電話会談があったわけですが、トルコは、トランプ大統領がそれについて何も言わなかったと思っているのです。皆さん、理解しておいてください。シリアとトルコは911kmの国境を共にしていますが、その内の700kmが既にクルドによって支配されています。そしてトルコは、これは、まるでそこに他国の軍隊が設置されているのと同様だ、と感じているのです。そこで何が起こったかということ、エルドアンが

「あの地域のクルド人を払拭する」

と決めたのです。彼はそれを隠しもしませんし、カモフラージュもしていません。彼がその表現を使っているのです。昨日だったか、数日前に、トルコのブルサという町で、エルドアン大統領は演説しました。その中で、——アレッポの北西にアフリーンという町があって、現在そこで戦いが起こっているのですが——

「アフリーンは元はスンニ派だった。我々はそこを再びスンニ派にする」

と述べました。つまり、民族浄化が起こっているということです。自分たちがそこに入って、すべてのクルド人を浄化する、と。世界は、沈黙しています。もし、イスラエルが、聖書的には我々のものである西岸地区に行き、次のように言ったら、——

「ここは元々ユダヤ人のものだったのだ。我々は再びここをユダヤ人の町にする。全てのパレスチナ人をここから取り除く」

世界は何をするか、世界は何を言うか、皆さん分かりますよね。しかし、ここにトルコの大統領が戦車、兵士、戦闘機をクルド人地区に乗り入れ、そして、世界に向けて言っているのです。

「ここはかつて、スンニ派のものだった。だから私は、ここを再びスンニ派のものにする。」

フランスは何も言いません。ヨーロッパも何も言いません。世界は、沈黙しているのです。アメリカは...もちろん、アメリカが何かを言う必要はありません。彼らは、現在クルド人を訓練しているのですから。つまり、基本的に私たちが目にしていることを、世界中の一般の人にも分かりやすく言うなら、アメリカとトルコの間亀裂は、今や非常に大きくなっていて、トルコはシリアに戦車を乗り入れ、そこに留まる口実を見つけたのです。しかしそれ以上に、アメリカ以外にクルド人を実際に援護しているのは、信じがたいかもしれませんが、イスラエルです。我々がシーア派拡大と戦うなら、また同時に、我々がISISと戦うなら、クルドが唯一それをしている人たちだ、ということをイスラエルは理解しています。それから、我々がそこに足を踏み込めないなら、我々がこれを戦えないなら、我々はそれをしている人たちを助けなければならない、と。ですから、霧が晴れて見えてくるのが、現在シリア北部で起こっているこれらの戦い、昨日1月21日に始まった戦い、異なる3箇所が始まり、その全てが少数民族居住地であるアフリーンに向かっていきます。彼らはほんの数kmしか進んでいませんが、彼らの狙いはクルド人を痛めつけるだけでなく、そこに留まり、シリアとトルコの間「安全地帯」を作りだすことです。トルコは、クルド人をこの地域に居させたくないのです。

我々が理解しておかなければならないのは、現在シリアでは異なる秘密裏の動きや勢力がたくさん起こっているということです。またそれは、世界中の一般の人には全く理解できません。スンニ派對シーア派の戦い、クルド人對トルコの戦い、穏健派對過激派、非常に複数レベルの戦いが起こっています。しかし、一つ確かなのは、シリアが、全ての軍隊、国々にとって、自分たちの願望を果たすための舞台となっている、という事です。以前は、世界がそれを許さず、出来なかったのですが、今ではシリアがあまりにも混乱しているため、皆が顔をそむけて、世はやりたい放題しています。

ロシアの狙いは、自分たちがあの地域でガスと石油を守る事。

イランの狙いは、シーア派イスラムの拡大。

トルコの狙いは、クルドと戦う事。

それぞれにそれぞれの策略があって、シリアが、彼ら全員の舞台です。いずれイスラエルから数マイル先に、トルコが駐留し、イランが駐留し、ロシアが駐留します。そして、ダマスカスで何かが起これば、この3つの国がその機会を利用して、イスラエルに侵略して来ることは、誰にでも簡単に分かります。

私がここにいる間に、多くの人に聞かれた質問がとても面白かったのですが――

「このエゼキエル戦争の中での、中国の役割は何ですか？」

これがとても興味深いのです。見てください。

ここ、西側にヨーロッパがあります。中東は、トルコ、ロシアが上にあり、トルコ、そしてイスラエルを囲んでイラン、スーダン、リビア。それから東側には大帝国、超大国があります。一旦、エゼキエル戦争が起こると、中東のイスラエルの敵は、――敵ですよ。和平を結んでいる国ではなくて。ヨルダンと和平を結んでいますし、エジプトも和平を結んでいます。彼らは、守られます。しかし、その他は全員、イスラエルに攻め込んで来る第二の層は、全員崩壊します。そして、それが崩壊すると、最終的に

衝突するのは、2つの領域だけになります。一つはヨーロッパ。ここから反キリストが生み出され、反キリストによって支配されます。そして、東の王たちがはるばるやって来ます。覚えていますか？最終的に起こる、と聖書に書かれている戦争、ハルマゲドンの戦いです。反キリストは、エルサレムで支配します。すると東の王たちは、干上がったチグリス・ユーフラテス川を渡って、はるばるガリラヤ、ハルマゲドンまでやって来て、最後にエルサレムに向かうのです。ですから、我々が現在目にしているのは、真ん中がイスラエルに攻め込む準備で、一旦その真ん中が崩壊したら、ゼカリヤと黙示録が描写している両端が残り、互いに戦うのです。そしてもちろん、キリストが戻って来られます。彼らは、キリストに対して武器を向けますが、彼は、彼らを焼き尽くし、すべての敵を滅ぼします。ということで、ポイントは——ところで、反キリストがイスラム教徒だとは、私は一度も言ったことがありません。事実、私は皆さんにはっきりとお伝えしておきます。反キリストは、ムスリムではありません。何度も言っていますが、ヨーロッパから出て、カトリックのおひざ元である大陸から登場し、バチカンが「大事なものは良い行いをし、良い人であることだ」というような新しい宗教をもたらすのです。バチカンの“エキュメニカル運動”（教会統一運動）で、基本的には全ての宗教を受け入れるのです。何度も言いますが、ムスリムの反キリストがユダヤ人に、エルサレムでの神殿建設を認めるとは、私には全く見えません。皆さん、それは脳裏から抹消すべきです。トルコは、最終的に崩壊します。トルコは、エゼキエル 38,39 章で攻撃する側ですから、神が彼らを裁き、滅ぼされます。したがって、反キリストがトルコから出ることはあり得ません。トルコは無くなります。エルドアンは反ユダヤ主義です。反キリストは、そもそも反ユダヤ主義ではあり得ません。ユダヤ人は、反キリストが平和をもたらそうとしている、と信じるのですから。これに関しては、明確にしておくべきです。現在、ヨーロッパが再びその力を結集しています。マクロンとメルケルが会談していましたね。どうにかヨーロッパを立て直そうとしています。それから中東は、自らをエゼキエル戦争に備えています。そして一旦、真ん中が崩壊すれば、後に二つの勢力が衝突します。

ペンス米副大統領が、昨夜イスラエルに到着しました。これから公式訪問が始まります。当初の訪問は、和平プロセスに再び火を点ける事でしたが、パレスチナは離陸しました。信じがたいですが、パレスチナ大統領のアッバスは、ラマラに留まって、アメリカの副大統領を迎える代わりに——パレスチナに、地上の他のどの国よりも多くの資金を与えている国の副大統領ですよ——彼は背を向け、ブリュッセルに飛びました。ヨーロッパ人に会って、パレスチナ人国家を承認するように、ヨーロッパ人を説得するためです。この冗談は終わらせなければなりません。この人たちは、国家を持たないだけでなく、存在しない国を認識させようと押しているのです。パレスチナ人国家などというものは存在しないのです。それなのに、どうやって認識するのか、私にはまったく理解できません。ただ、私に分かっているのは、彼らは非常に恩知らずだということです。また、私に分かっているのは、彼らはアメリカからお金を取れない限り、話もしないという事です。それから、私に分かっているのは、長年アメリカは、モンスターに餌を与え、大きな間違いを犯してきた、ということです。そして今、お金が流れないと、誰もアメリカの大統領にも副大統領にも会いたがらない。だれも彼らと話もしない。つまり基本的には、パレスチナ人がしているのは、1948年に彼らが行なったのと全く同じです。1948年、彼らは我々に攻撃してきた敵の側につきました。エジプト、ヨルダン、シリア、イラク、レバノンの側についたのです。彼らは、我々を滅ぼすために攻めて来た、全ての国の側についた。これは、詩篇 83 篇です。それが今も全く

同じで、彼らに多くを与えたサウジの側につかず、彼らに多くを与えたアメリカの側につかず、彼らは現在、イラン、トルコの側についています。彼らは、イスラエルに攻め込んでくる国々の側についています。このように、イスラエルの敵たちは、まさに1948年、1967年の時と同じように、ただ外側から攻めて来るだけでなく、パレスチナ人たちが敵側に付き、内側から我々を攻撃しようとし、詩篇83篇が告げているのとは違う点は、第一層に当たる国々はもはやイスラエルとは戦争をせず、第二の層の国々、イランやスーダン、リビアといった国々が攻めて来て、パレスチナ人は1948年、1967年とう同様の手法で、またしてもやって来ます。しかも、1948年、1967年のどちらも、彼らにとって大惨事で終わったのです。もしこれまでに彼らに国が与えられていたとすれば、1948年の国連決議では、彼らに国家が与えられるはずだったのです。しかし、拒絶したのは彼らの方です。我々は拒絶しませんでした。パレスチナ人には、ガリラヤの一部まで差し出されたのに、拒絶したのは彼らの方です。そのために、間違った側に味方して、またしても自分たちの上に大惨事を招くのです。恐らく、それで終わりになるでしょう。我々の初代首相のアバ・エバンがかつて言ったのは

「パレスチナ人たちは、チャンス逃すチャンス絶対逃さない。」

彼らはいつも同じ過ちを犯すのです。自滅的な人間のように、平和の機会が訪れると奇跡的に、物凄い才能を発揮して、それをゴミ箱に投げ捨てるのです。誰かが言っていましたが、パレスチナの指導者たちは、平和には興味がないのだ、と。もし平和になると、彼らは資金を得られなくなりますから。テロは儲かるのです。パレスチナの大統領は、それまでの人生の中で仕事をしたことがありません。しかし、彼は億万長者です。彼が億万長者なのは、彼が受け取る資金のすべてから、その一部を取っているからです。それは、彼の議員たちも同じです。あるパレスチナ人の、聡明な人が言っていたのは

「アミールさん、パレスチナ人とイスラエル人の違いはね、あなたの政治家たちは10%を盗んでも、まだ90%をあなたがたに残しておくでしょう。我々の政治家たちは、90%を盗んで、10%を我々に残すのですよ。」

これは実に鋭い、と私は思います。

つまりポイントは、シリアとトルコの国境での展開を、現在目の当たりにしていて、トルコが再び位置につきつつあり、彼らがそこにいるのには、本当の目的があるのです。また、パレスチナがアメリカの和平提案に背を向け、アメリカの副大統領と会う事さえ拒んだのを目の当たりにしています。副大統領は現在、イスラエルを訪問中で、クネセット（イスラエル議会）で演説するだけでなく、彼もまた、トランプ大統領と同様、国務省のあらゆる命令に反して、西壁を訪れます。これは、凄いことです。それから、多くの混乱が起こっているのを目の当たりにしています。シリア北部では、皆ISISは消滅したと思っていますが、なんとISISは、シリアで力を回復してきていて、再びどんどん土地を占領しています。もう一つ、本当の混乱が起こっているのは、リビアです。リビアはエゼキエルに出て来る国々の一つです。ヨーロッパ連合、ヨーロッパ社会は、膨大なお金をイスラム系の組織に支払っています。アフリカ人がリビアからヨーロッパに流入して来るのを止めるためです。問題は、ヨーロッパ連合からお金を取るようとしている、イスラム聖戦派の非常に小さな分派同士が、ヨーロッパに流入する移民を止める代わりに、誰がお金を受け取るかで戦っているのです。そして、その戦いを横目に、移民はこれまでになく強烈にヨーロッパに入っていて、現在ヨーロッパは大変な危機に直面しています。そのためにマクロンがメルケルに会って、状況を修復する道を模索中で、ヨーロッパの人々は、この悲惨な状況から抜け出

させてくれる人を必死で求めているのです。押し寄せるイスラム移民の波のために、反ユダヤ主義が起こっています。東ヨーロッパの一部で、伝統的な反ユダヤ主義と、移民と共に起こった新しい反ユダヤ主義が一緒になって、ユダヤ人はもはやヨーロッパでは安心できない状況を生み出しています。そして、彼らの多くがイスラエルへ戻っています。ユダヤ人が故国に戻って、預言を成就させる様子は、とても興味深いです。それら全てのことから、ヨーロッパ人たちは、ヨーロッパを贖い出してくれる人、ヨーロッパの救世主を求めています。その者が、いずれロシア、トルコ、イランが崩壊すると介入し、世界と中東に、新しい和平計画をもたらすのです。

ということで、物凄いことが起こっているのを、私たちは目撃しています。どうか、シリア、イランの両方で現在起こっていることに常に目を見開いてください。ダマスカスに注目しておくべきだと、私は思っています。いずれ、イザヤ 17:1 で伝えられている通り、ダマスカスは滅ぼされます。それから、私は先ほども言いましたが、それがイスラエルであったにしても、違っても、それでイスラエルが責められることになり、イスラエルが攻撃されます。私は、戦争の滅びにワクワクしているのか、と聞かれば、もちろんしませんよ。しかし、神が動いておられることにワクワクしているか、と聞かれば、当然です。神は、これら全てが起こる事を許可されたのです。実際、神は、人間が最も得意とすることをさせたのです。つまり、滅ぼす事です。同時に神はまた、そこで救い主を選ぶ者には、救いを与られます。現在、膨大な数のイラン人と、この闘争の様々な場所にいる人々が救われている、と聞きました。ですから、私たちは祈る時、続けて二つの事を祈らなければなりません。

一つは、福音が引き続き、あらゆる場所に広がるように。イスラム以外の選択肢があるのだと、人々が理解するために。彼らは、これらの争いの中で、イスラムとして生まれ、イスラムとして死ぬ必要はないのです。彼らはいのちを選ぶことも出来るのです。いのちを選ぶことが出来る、私たちはそれを伝えなければなりません。私たちが、彼らに伝えなければなりません。それだけでなく、更に神は、世界中の指導者たちが大きな事をしようと考え、他の世界を騙すことが出来ることを、許しておられるのが見えます。神は笑っておられますよ。彼らが理解していないのは、彼らは、自分自身を滅ぼすのだ、ということです。歴史を通して、指導者たちが何をするのか、彼らがそれについて考えもしないうちから、神は、はっきりとそのことを知っておられます。モーセの時代のパロにさかのぼれば、主はモーセに言われました。

「あなたは、パロの前に立って、あなたがイスラエルの民をエジプトから連れ出す、と言うが、彼はそれを認めないだろう。」(書記注:出エジプト記 3:19 参照。)

つまり、パロが、モーセの言葉を聞きもしないうちから、神はパロの反応をモーセに告げておられたのです。そして神は、御言葉を通して、預言者たちを通して、私たちに言われたのです。イスラエルの敵の行動、考え、計画がどういうものか。そして神がまた、私たちに言われたのは、これら全ての解決策を神は知っておられる、ということです。彼らは、またしてもイスラエルに敵対して攻めて来ますが、神がまたしても介入され、イスラエルを救い、その敵を滅ぼされる。

ですからどうか皆さん、重要な事の視野を見失わないでください。皆さんの周りを見て、恐れたり落胆したりしないでください。昨日私は伝えたのですが、これは競走です。皆、忍耐して競走を走り続けなければなりません。そして、覚えておいてください。私たちに与えられる褒美の冠とは、黙示録 4 章で

24人の長老たちが頭から取り、イエスの足元に差し出す、あの冠です。それは、私たちが天国に行った時に行う事の描写ですよ。だから私は、競走があるごとに超ワクワクしています。アスリートも、時にはつまずき転びます。私たちも転びますが、その時は立ち上がるのみです。そして、走り続けるのです。聖書には

13 ...うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、

14 (中略) 目標を目ざして一心に走って...

(ピリピ 3:13~14)

と書かれています。だから、私たちはこれらの事全てを覚えておかなければなりません。それ以上に、私たちは、主が戻って来られるように祈らなければなりません。

17 御霊も花嫁も言う。「来てください。」...

(黙示録 22:17)

とても素晴らしいのは、聖書の最後の書の最後の章、最後の言葉は、主が言っておられるのです。

20 ...「しかり。わたしはすぐに来る。」アーメン。主イエスよ、来てください。

(黙示 2:20)

彼はすぐに来られます。その日は近づいていて、ヘブル書 10章によれば、約束された方は真実であることを、私たちは知っています(ヘブル 10:23 参照)。そして私たちは、イエスの時代以来、神の御業の最も大きな事を目撃しているのです。別の言い方をすれば、イエスの時代以来、これほどの短期間に、こんなにもたくさんの出来事が起こるのを目撃した世代は、私たち以外にないのです。だから、私たちの肩には、大きな責任がかかっているのです。これらのことを深刻に受け止め、これによって励まされるだけでなく、このことを皆に伝えなければなりません。どうか落胆しないで、悲しまないでください。私たちは、誰が勝つのかを知っているのですから。本の結末を、私たちは知っているのですから。私たちは、悲しんでいるかも知れません。悲しまなければなりません。私たちは、信じていない人たちのために、心を痛めるべきです。聖書には、イエスが悲しみの人であったと書かれています(書記注:イザヤ 53:3 参照)。彼は立ち止り、エルサレムのことで泣かれました。彼の訪れを、エルサレムが逃してしまうことを、彼はご存知だったからです。パウロもローマ書 9章、10章で言っています。

「私には大きな痛み、悲しみがあり、出来る事なら、自分の同胞イスラエル人を私が救いたい。」(ローマ 9:2~3 参照)

迷い出ている人たちに対する悲しみや痛みは、私たちが感じるべきもので、同時にそれに突き動かされて、私たちは福音を伝えるべきです。もし、私たちの中に迷い出た世に対する悲しみや痛みがないなら、信者として何かの間違っています。しかし同時に、神の動きに対してワクワクしないなら、これもまた何かの間違っています。私たちは、主がもうすぐ来られて、私たちを連れて行ってくださることに、超ワクワクするべきです。そして同時に、迷い出た世を理解して、私たちがすべき大きな事があります。ただ何もしないで、じっと座っているようなことのないように。主人は来られます。そして主人が留守の間に、人々の世話をする忠実で良いしもべを求めておられます。ですから、これらの事全てを覚えておきましょう。

皆さん、ご視聴くださり、ありがとうございます。今回、フェイスブックではありませんでしたが、これを後でユーチューブにアップして、それからフェイスブックに投稿します。私のミニストリーツアーの素晴らしい写真をご覧になりたいなら、どうぞインスタグラムをフォローしてください。続けてBeholdIsraelです。ウェブサイト Behold Israel.org からニュースレターをご登録ください。それから、アプリストアで無料アプリをダウンロードしてください。Behold Israel です。

神がされていることに、とてもワクワクしています。

世界中で起こっていることを皆さんにお分かちして、皆さんにもワクワクしていただきます。

ありがとうございます。God bless you! シャローム！では、アロンの祝福を皆さん全員の上にお祈りしましょう。

ヴェイシェメレハー

וְיִשְׁמְרֶךָ

..(主が)あなたを守られますように

アドナーイ

יְהוָה

主が

イエヴァーレフハー

יְבָרְכֶךָ

あなたを祝福し

ヴィーフネツカー

וַיְחַנֶּךָ

..(主が)あなたを恵まれますように

エーレーハー

אֵלֶיךָ

あなたに(向けて) 御顔を

パーナーヴ

פָּנָיו

アドナーイ

יְהוָה

主が

ヤーエール

יָאֵר

照らし

シャーローム レハー

שְׁלוֹם לְךָ

平安を

ヴェヤーセーム

וַיִּשֶׂם

(主が)賜るように

エーレーハー

אֵלֶיךָ

あなたに(向けて) 御顔を

パーナーヴ アドナーイ

פָּנָיו יְהוָה

主が

イッサー

יִשָּׂא

上げて

(引用：牧師の書齋 <http://meigata-bokushin.secret.jp/>)

24 主があなたを祝福し、あなたを守られますように。

25 主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。

26 主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。

(民数記 6:24～26)

主の平安、私たちのすべての理解を超える平安、平和の君、イエシュアの平安が、あなたに与えられますように。

お父様、この全ての約束に感謝します。

主の御名によって祈ります。

アーメン。

アーメン。God bless you! フィリピンのマニラより、シャローム！

ちょっとカメラを回せるか、やってみましょう。(窓の外の景色) ワーオ！綺麗に見えますね？マニラです。私が座っているところからは、とても良い眺めです。今回、邪魔が入らず静かに行えるよう、会議室を予約したのです。

ありがとうございます。God bless you! フィリピンのマニラより、シャローム！
God bless you all! さようなら。

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>